

2016 年度国際交流基金事業特別講義実施報告

2016 年度国際交流基金事業・外国人学識者招聘計画（短期）の一環として、10 月 24 日～10 月 28 日の日程で南オーストラリア大学の Bruce Gurd 准教授 (University of Adelaide Ph.D.) を招聘した。Bruce Gurd 准教授は、中国やインドネシア、日本といった、アジア各国のマネジメントコントロールシステムを研究されており、strategic management 分野で多くの研究業績を残されている。

10 月 25 日の 2 時限には、「Mixed methods – mixed or mashed?」という研究手法についての講義が、10 月 26 日の 2 時限には、「A Critical Analysis of Social Return on Investment」という Bruce 准教授が現在進めている研究についての講義が実施された。

「Mixed methods – mixed or mashed?」の講義においては、まず、研究方法に関して著名な John Creswell 博士の書籍から、定性的データと定量的データをどのように組み合わせ、あるいは融合させ研究を進めていくかについて紹介をいただいた。過去 25 年の研究から現在の研究は、複雑性と学際性、そして幅広い手法が用いられるようになり、定性的・定量的両方の手法からのアプローチが求められている。これらのデータを用いた研究デザインのパターンは数多く存在しているが、どのパターンを選択するかについての留意点や、両データを用いて研究を進めるために踏むべきプロセス、有効なツール（フォーマット）など実践的な講義をいただいた。

「A Critical Analysis of Social Return on Investment」の講義においては、Bruce 准教授が現在インドネシアで進めている支援プロジェクトを基にした研究報告をいただいた。これは、オーストラリアやイギリスにおいて、民間組織による発展途上国の支援プロジェクトが盛んに行われている中で、それらプロジェクトがもたらす利益がどの程度であるのか、その測定があいまいになっている現状に問題意識を持ったことが背景となっている。講義の中では、インドネシアの厳しい現状やプロジェクトを進める中での現地の人たちとの交流などの話も織り交ぜながら、支援プロジェクトにおける投資採算性の測定について報告をいただいた。

両講義には、経営学研究科を中心とした院生が多数参加し、講義内容について Bruce 准教授と英語による意見交換が活発に行われた。今回の招聘を通して、彼らの研究に直結する示唆が数多く得られることとなった。

報告者： 明治大学経営学部 鈴木 研一